

# 一番寒くて、一番アツかったまふゆのキャンプ

2021 冒険学校まふゆのキャンプ村長・自然文化誌研究会運営委員 齋田隼人(だにえる)

記憶が正しければ、私の INCH キャンプの参加は大学3年生、2014年のまふゆのキャンプからだ。思い思いのことに打ち込む子どもたちやそれを見守ったり手伝ったり、時には何もしないで自分たちも自由に楽しむ大人たち、そんなキャンプ場の雰囲気や時間の流れに魅入られて7年が経ち、今回まふゆのキャンプで村長を任されることになった。

今の自分の役割とは、キャンプに参加する意義とは、なんてことを考えるきっかけになったので、自分なりの意見をまとめてみようと思う。キャンプは様々な立場の人が集まる場所である。小学生・中学生の参加者と高校生・大学生の学生スタッフ、社会人として参加する人たちも年齢も住んでいるところも仕事もバラバラだ。そんな人たちが寝食をともにして、面白いことを探し、楽しむ空間なのだ。当然、考え方も価値観も違う。出来ることも、やりたいことも違う。それでも一緒に過ごす中で、交流があり、衝突もありうる。こうした関わりを通して、新たな視点や価値観が生まれることが大事なのだと思う。ただ、まふゆのキャンプやむらまつりキャンプの3日間ではやや短い。人と人をつなぐことや、関係を崩し、広げるために動くことが今の自分には必要なのではと思っている。



「寒さ」がまふゆのキャンプの魅力であり、課題でもあることを改めて感じた3日間だった。溶けない氷のペンダント、夏に見たときよりも輝いていた星たち、コップに注ぐと凍っていく飲み物など普段の生活では出会えないことがたくさんあった。タライに入れた水もどんどん厚く凍っていき、3日目には上に立てるほどだった(2日目は割れて、村長は足を濡らした)。その一方で、冒険学校同様に一人1テントで過ごすので寝るときはとても寒かった。子どもたちは湯たんぽを入れたり、カイロを貼ったりしてようやく眠ることができたようだ。1日目の夜は寝袋を掛け布団のようにしていたら寒かったが、2日目の夜は寝袋の中に寝袋を入れて寝たらずっと温かったと話す子もいた。小菅の寒さは貴重な体験をもたらしてくれるが、体力や健康の面ではやはり厳しい。そんな事情もあり、キャンプ場でまったり過ごすという雰囲気があったので、囲炉裏で団欒をしたり、工作や焚き火を楽しんだりする時間が多かったが、最終日に白糸の滝や雄滝のような小菅の自然を見に行く時間が作れたら良かったなという思いも残る。今回は大学生のスタッフが多く参加してくれたことや、キャンプの参加経験がある子どもたちで帰り支度も素早く済んだために、そんな欲が出たのかもしれない。

このコロナ禍の中でも、まふゆのキャンプを開催し、無事に終えることができたことに胸をなで下ろしている。昨年は開催することすら出来なかった。ただ何もせずにはいられずに研修キャンプという形を取って、佐伯さんと宮坂さんと私の3人でキャンプ場で過ごしたことを思い出す。夏の冒険学校に続き、まふゆのキャンプもスタッフや参加者の熱意と創意工夫で開催できたのだという喜びを、この振り返りを書きながら噛みしめている。



(夏のこすげ冒険学校に引き続き、一人1テントで個別就寝場所の確保を徹底しました(濃厚接触者を出さない。))

## ＜活動の様子とスタッフからの声＞

### 森住芽衣さん（東京学芸大学2回生）

お疲れさまでした！ 昼間に水を入れて置いておいたら凍る、冷蔵庫の方が暖かいとかキャンプ前は信じられませんでした  
がほんとでした！！

野鳥観察のときに雑草が凍っていたり、木になってる山梨が凍ってたのとか(おいしかった!)、ご飯がすぐ冷たくなっちゃう  
のとか、私の日常では考えられないような状況にたくさん出会ったことがまず楽しかったし、山の木の種類が違う理由とか  
信号機がある理由などの小菅村についてのお話が聞けたのも楽しかったです！！

美味しいものをたくさん食べられたことも幸せでした。



(木下善清さんの炭焼き窯から炭を出す作業、長さを揃えて梱詰めし、軽量する作業を手伝いました。普段からキャンプ場で使用している炭も木下善清さんがこの窯で作った炭を使用しています。)

### 小平温太さん（東京学芸大学2回生）

まずは寒いなか、皆さんありがとうございました。私も地元で寒さにはある程度鍛えられていると自負していたのですが、  
いざキャンプ場に足を踏み入れてみると、ブルブルわなわなで大変でした。次回は運動靴から卒業したいと思います。

さて、今回もまなつのキャンプに次いで、連続参加させていただきました。さまざまな「たいかん」の中で得られた、非日  
常の中の体験はどれも宝物です。

ピザ窯構想が実現したり、じっくり星や野鳥を観察できたり、多くの驚きや発見がありました。夏と比べて冬は出来ること  
が限られるぶん、のんびり囲炉裏を囲んで語らう時間の価値がグンと上がったように思いました。子どもの数も少なかったの  
で、一人ひとりに話しかけられる時間も増えて、より仲良くなれて嬉しかったです。

他のみなさんも書かれていますが、毎回の食事は本当に美味しかったです！朝食を汁系にしてくれていたみどりさん達の工夫は  
非常にありがたかったです。温まった！！



(加藤原久さんに野鳥観察をご案内いただきました。野鳥だけでなく植物や生活についても教えていただきました。)

### 佐伯順弘さん（自然文化誌研究会運営委員）

この寒い過酷なキャンプに多くの学生スタッフが参加してくれたことがうれしい。決して、こちらの都合でありがたいだけでなく、学生の皆さんがこのコロナ禍で活動が制限され課題やオンライン授業が詰まっている中でこの体験を選んでくれて「体感」してくれたことがうれしい。ピザ窯も軽い気持ちで「できますよ。」と投げたら、思いの外頑張ってくれたスタッフのおかげで実現までこぎつけました。これでまた一つプログラムが増えました。ピザ窯づくりから更にそれで作ることでできるものへと多岐に広がり、活動に幅ができるのはうれしいことです。



（ハンドメイドのピザ窯、使用した耐火レンガは100個。今回組み立てた物は解体してありますので、次回はまた組むところから（場所は自由に）使用することができます。） ↓ 星空観察          ↓ 川に入るボビー          ↓ 五右衛門風呂



### 大瀧ほの香さん（慶応義塾大学 3 回生）

5 日間ありがとうございました！

薪割りや囲炉裏を囲んでのご飯、全てが凍ってしまう世界など、新鮮なことだらけでとても楽しかったです！キャンプ場で食べるご飯やお菓子も最高に美味しかったです♪ご馳走様でした！

自然の中で子どもたちと関われる時間が幸せでした。温かく迎入れて、沢山のことを教えてくださったスタッフの皆さん、本当にありがとうございました！



### 立木由伸さん（東京学芸大学 2 回生）

めっちゃ楽しかったです！！ほんとに参加してよかった。個人的には五右衛門風呂が最高でしたね。あと食事がとても美味しかったです！！作ってくださった方々、ありがとうございました。。山の食事がいつもと違いさらに美味しく感じた気がします。

焚き火を囲んでのお話も新鮮でまったりで良かったです！！星も綺麗だった！！

やっぱりめちゃくちゃ寒かったですね。僕は身長高い方で、寝袋の上まで頭が入らず、、（笑）

次回もぜひ楽しみにしてます！！

